

活動成果報告書

平成27年度（第19回）「チヨダ地域保健推進賞」

活動テーマ

幼児健診事後フォロー教室「すこやかランド」
～発達に心配がある子、親に寄り添いつながり支援～

応募グループ名称及び氏名（グループの場合は代表者名）

高萩市健康福祉部健康づくり課
代表者：金澤 優美

勤務先：高萩市役所

所 属：健康福祉部 健康づくり課

所在地：〒318-8511

茨城県高萩市春日町3-10

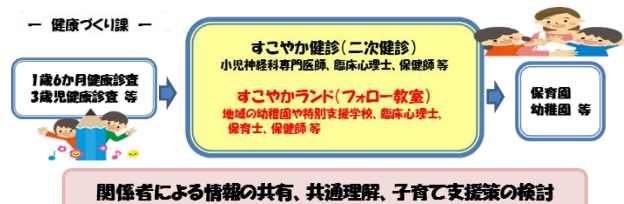
TEL：0293-24-2121

FAX：0293-22-0700



◇活動方針

事後フォロー教室「すこやかランド」は、月1回保護者が定期的に児の発達や育児について相談ができ、対象児童にとっては遊びを通して発達が促される場となるような教室を組み立てています。また、児や保護者への支援の継続を図るため、幼稚園、保育園への就園などに向けて支援者への情報共有、連携の推進をめざしています。



◇活動内容とその成果

1. 活動内容

≪平成26年度の取り組み≫

- ・すでに取り組んでいる市への視察：O市の幼児健康診査事後教室、N市こども発達相談センター
- ・県などが開催する研修会への積極的な参加（発達障害関係等）
- ・当市の取り組みに向けての検討（スタッフ、プログラム、部屋、遊具、記録等）
- ・特別支援学校：地域支援コーディネーターの派遣や遊具の借用についての相談
- ・民間の療育教室：臨床心理士や保育士の派遣依頼と、市保健師の民間療育教室へ出向くなど職員の交流を通して、対象児童の把握やフォロー教室の内容を検討

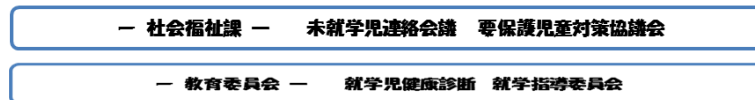


図1. 幼児健診事後フォローの流れ

活動成果報告書

- ・地域リハビリテーション支援センター（県から地域リハビリテーションの指定を受けている T 病院）：教室の主になるプログラムについて、理学療法士や作業療法士に相談し、「感覚統合法」を用いたサーキットについて組立を行いました。
- ・福祉課や教育委員会との連携：フォロー教室の説明と連携協力について話し合いました。幼稚園園長会では、カンファレンスへの参加、情報提供書などによる情報共有と就園児の支援の継続について説明し、フォロー教室とのつながりについて理解が得られました。

《平成 27 年度の取り組み》

- ・平成 27 年 5 月から「すこやかランド」を開始

スタッフ：保健師 2 名、保育士 2 名、臨床心理士 1 名、特別支援学校地域支援コーディネーター 1 名
子育てアドバイザー 1 名（参加者の兄弟への支援）

内容：①自由あそび（電車ごっこ、輪投げ、サッカーゴール、大型積み木、バランスボール・フラフープ、ボーリング、かんぽっくり）図 2。

②おあつまり（あいさつ、呼名、手遊び歌、リトミック）

③保護者の相談（随時相談には対応する）

④サーキット（感覚統合法を用いた）図 3。

・ケンケンパ【固有覚、視覚】

・トンネル【固有覚】

・人工芝【触覚】

・ミニハードル、レインボーバランスストーン【前庭覚、固有覚】

・トランポリン【前庭覚、固有覚】

・ボールをかごに入れる【視覚、固有覚】

⑤絵本の読み聞かせ

⑥終わりのあいさつ

⑦カンファレンス（スタッフの情報共有、今後の支援の方向性を確認）

実績：対象児 13 名 / 50 名（実 / 延べ、H28.1 末現在）



図 2. 自由あそび



図 3. サーキット

2. 活動の成果

- ・フォロー教室を実施するようになったことで、子どもの様子を定期的に把握でき、それに併せて保護者が不安に思っていることについて相談を受けることができるようになりました。
- ・教室は、特別支援学校教諭、臨床心理士、保育士、保健師等の多職種が参加しており、それぞれの得意分野を生かしながら教室を進めることができます。
- ・市の保健師が民間の療育教室に参加することで、対象児童について把握でき、保護者との関係性ができ、市のフォロー教室への勧奨がスムーズにできるようになってきました。
- ・健康診査後の二次健診（すこやか健診）につなぐにあたり、児の状況を説明することで、保護者の受け止め方を把握し、保護者の気持ちに寄り添った支援ができるようになりました。
- ・市内の幼稚園等と、対象児の就園についての支援がつながるようになり、共通理解が進んできました。
- ・プログラムのサーキット（感覚統合法）については、地域リハビリテーション支援センターの助言で内容の充実が図られました。

活動成果報告書

◇今後の計画

事業の実施にあたり、各関係機関の理解を得るために様々なところに足を運び、相談や調整をしてきました。実際に出向いて直接顔を合わせて話をすることで、多くの意見をいただくことができ、「すこやかランド」の充実を図ることができました。対象者や関係機関との「顔の見える関係」が大切であることを改めて実感しました。

教室は、今後もサーキットの内容や教室全体の組立について、実践をとおして繰り返し検討していく必要があります。

① 情報提供書の活用

就園を迎える児については、幼稚園や保育園に情報提供し、支援の継続がされることが望まれます。そのために、情報提供書を作成し、「つなぐ」必要があります。保護者には、支援の継続やきめ細やかな対応をしてもらうために必要なものと理解していただけるよう情報提供までの過程を工夫していきたいと思ひます。

⇒H27年10月に提供書を作成し、保育園に就園するため「すこやかランド」を卒業するケースについて11月に情報提供書を保育園に直接説明に行きました。情報提供書には、対象児のすこやかランドでの状況や園で注意してほしい事項などをまとめました。情報提供書作成にあたっては、保護者と面接し園に伝えてほしいこと、不安に思っていること等を聞き取り、情報提供についての同意を得ました。今後、H28.3月に幼稚園に就園のため多くの子供たちが、「すこやかランド」を卒業するので、丁寧な面接を実施し、つないでいきたいと思ひます。図4。

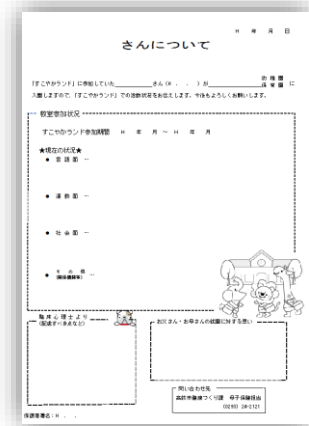


図4. 情報提供書

② 遊びを通した発達支援の理解をすすめる

(保護者向けパンフレットの作成)

「すこやかランド」で実施している遊びは、感覚統合法を用いたサーキットです。保護者が、サーキットを実施する理由について理解でき、家庭でできる発達を促す遊びを紹介するパンフレットを作成しました。

⇒H27年10月に、保護者向けのパンフレットを作成し教室に参加している保護者に説明して配布しました。教室は月1回ですが、家庭でできる感覚統合遊びについて紹介することで、家庭での遊びの中にも取り入れてほしいと思ひます。図5。

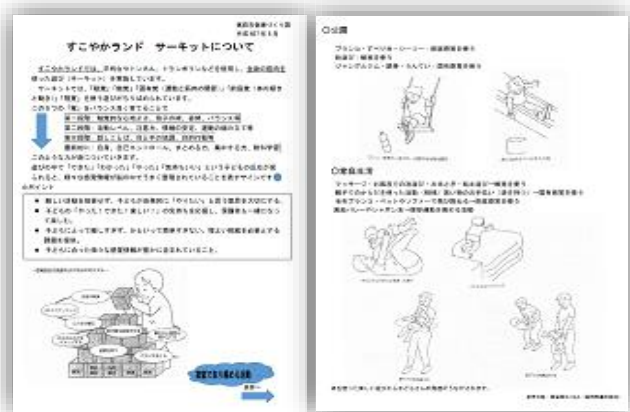


図5. サーキットについて配布資料

③ 予算確保

事業開始の今年度は、最低限の件数確保で運営しました。次年度については、首長や財政担当にすこやかランドの実績や役割を説明し、サーキットで利用する遊具の購入予算を獲得していきたいと考えています。

④ 連携の推進

療育は、保健部署のみでは限界がありますので、今後も保健、福祉、教育等の各部署と話し合いを進めながら、市としての方向性「高萩市の療育」について考えていきます。